

統合国際掘削計画 (IODP) における古環境研究の現状と今後の展望 : INVEST 国内ワークショップからの報告

Status of and perspectives on paleoenvironmental researches in IODP: a report from the

井龍 康文 [1]; 川幡 穂高 [2]; 西 弘嗣 [3]; 黒田 潤一郎 [4]

Yasufumi Iryu[1]; hodaka kawahata[2]; Hiroshi Nishi[3]; Junichiro Kuroda[4]

[1] 名古屋大・環境・地球; [2] 東京大学大学院新領域創成科学研究科; [3] 北海道大・理・自然史科学; [4] なし

[1] Depart. Earth & Planetary Sci., Nagoya Univ.; [2] GFS and ORI, U of Tokyo; [3] Dept.Natl.His.Sciences, Fac.Sci., Hokkaido Univ.; [4] IFREE, JAMSTEC

IODP New Ventures in Exploring Scientific Targets (INVEST) は、2013年以降の統合深海掘削計画 (IODP) の科学計画を策定する国際会議であり、2009年9月にプレーメンで開催予定である。IODPに参加する各国の科学者コミュニティは、これまでの地球掘削科学の進展を踏まえ、2013年以降の科学プランを示すことが求められている。このような状況を踏まえ、日本国内でも、Geohazard, Earth's Interior, Paleoenvironment, Deep Biosphere and Sub-seafloor Aquifer, Technology Development の5つのグループが組織され、日本発の科学プランの策定に務めている。本公演では、2008年12月4日~6日に開催された Paleoenvironment グループの国内ワークショップ (INVEST 国内 WS Paleoenvironment) における議論の概要を紹介する。

Paleoenvironment グループの国内ワークショップ参加者は、Initial Science Plan の改訂に向けて、日本の Paleoenvironment コミュニティから「既存の ISP を越えた新しいサイエンス」を提案するための討論を行い、その Paleoenvironment 部分のキャッチコピーと章立てを考えた。キャッチコピーは Climatic Crisis Survival である。これは、急激な気候変動が懸念される現在、変動予測については IPCC などを通して理解が深まりつつある。今後は、我々人類がその変動の中をどのように生き延びていくかが焦点になっていくと予想され、そのヒントは「過去」にある。上記のキャッチコピーにはこのメッセージが集約されている。